

原 著

療養型病床群の実態調査

小坂 浩子*1) 上平 三江子*2) 高野 暁子*3)

厚生連では現在、高齢化社会に向けて、病院機能の転換をはかる事により、病院経営の向上をめざしている。

地域の医療ニーズも多様化している中で、療養型病床群を導入する事により、一環した医療と看護サービスを提供し、機能的な病床使用が可能となる。

又、特養・老健施設と連携し、訪問看護ステーションを活用した在宅ケアを充実する事により、地域住民の保健・医療・福祉に貢献する事ができる。

療養型病床群が導入された豊栄・糸魚川・魚沼の各病院にて現状把握の目的で実態調査を行ったので報告する。

キーワード：高齢化社会・療養型病床群・介護保険制度

はじめに

厚生連では現在、高齢化社会に向けて病院機能の転換をはかる事により、病院経営の向上をめざしている。

療養型病床群が導入されてまだ間もないが、現状の把握のために糸魚川・魚沼・豊栄のそれぞれの病院で実態調査を行ったので報告する。

調査期間：平成11年4月～7月

対 象：療養型病床群の入院患者

方 法：調査期間中の入院カルテ及び食事箋により抜粋

調査内容：1. 入院患者延人数の整形・内科の割合
2. 年齢構成
3. 在院日数
4. 整形外科・内科の疾患名と食事内容について

《療養型病床群について》

定義：病院の病床（一般病床）のうち一群のものであって、主として長期にわたり療養を必要とする患者を収容するためのものをいう。

対象患者：「特に規定なし」

(例)

高血圧症・脳血管疾患・慢性腎疾患・脳

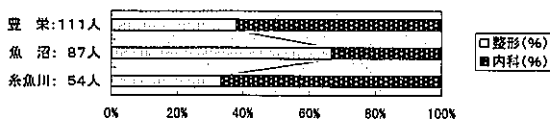
血管疾患後のリハビリ患者・慢性関節リウマチ・その他の慢性期疾患

「対象患者の受入れ計画」

- ①病状が安定し、計画的投薬等の一定の治療方針が出されている患者
- ②日常動作が安定し、ADL自立している患者
- ③リハビリ訓練を主とする患者
- ④慢性疾患(慢性肝炎・慢性心疾患等)、心療内科の患者
- ⑤外科手術後の回復期療法……等

結 果

1. 入院患者延人数の整形・内科の割合
豊栄・糸魚川については整形が約4割、内科が約6割とほぼ同様であった。(グラフー1)



グラフー1 入院患者延人数の整形・内科の割合

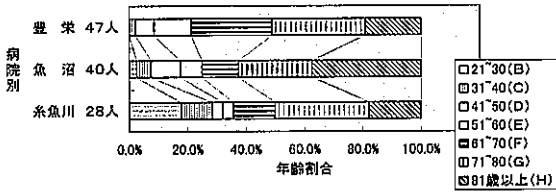
2. 年齢構成については、71歳以上が男性では5割以上、女性では6割以上を各病院とも占め、特に81歳以上の高齢患者が豊栄・糸魚川では約半数となっている。(グラフー2、グラフー3)

*1) 〒950-3327 新潟県豊栄市嘉山1丁目2番6号

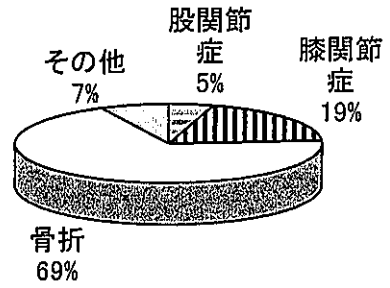
豊栄病院栄養科

*2) 糸魚川総合病院栄養科

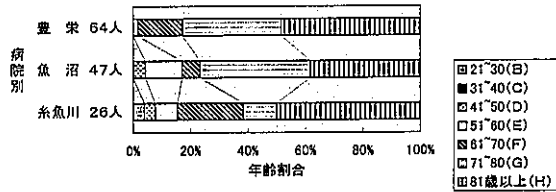
*3) 魚沼病院栄養科



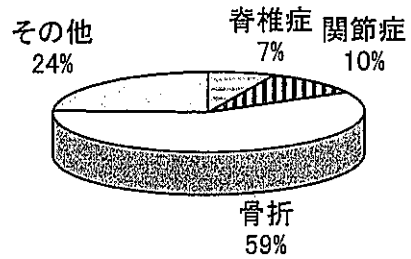
グラフ 2 年齢別構成図 (男性)



豊栄整形疾患名割合

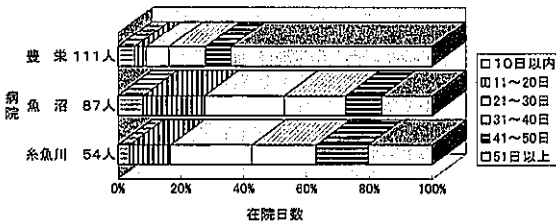


グラフ 3 年齢別構成図 (女性)

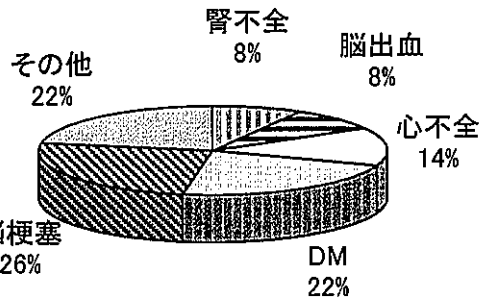


魚沼整形疾患名割合

3. 在院日数については、51日以上が豊栄では6割を越え31日以上では魚沼、糸魚川とも5割以上あり長期入院となっている。(グラフ 4)

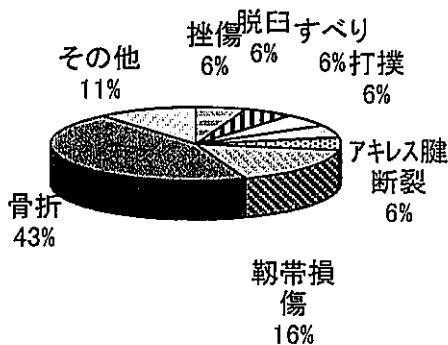


グラフ 4 病院別在院日数

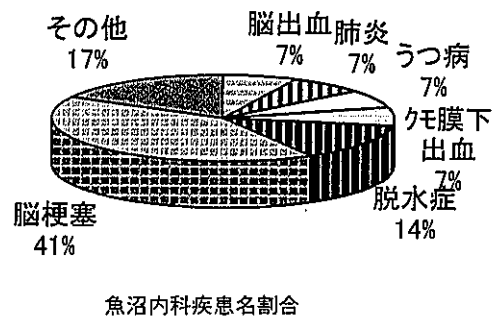


グラフ 6 糸魚川内科疾患名割合

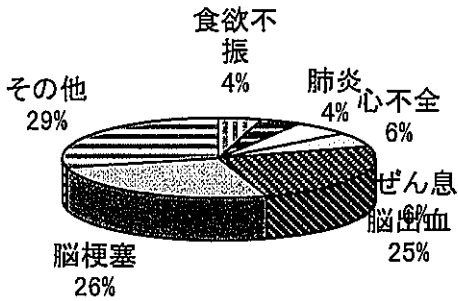
4. 疾患名については、各病院とも整形では骨折、内科では脳梗塞が最も多い。(グラフ 5、グラフ 6)



グラフ 5 糸魚川整形疾患名

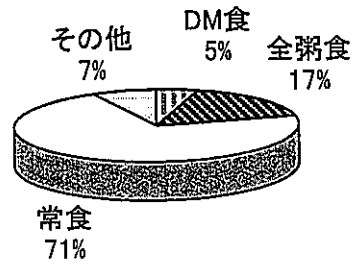


魚沼内科疾患名割合

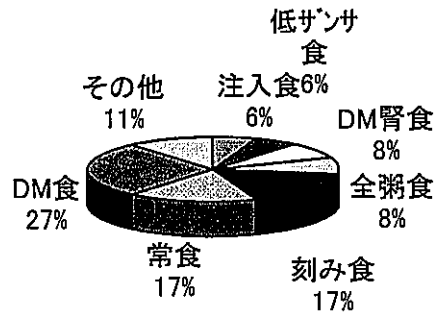


豊栄内科疾患名割合

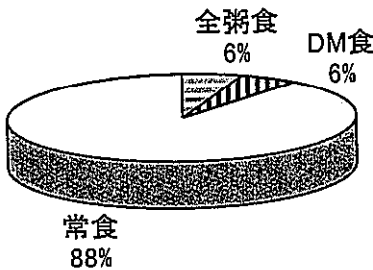
食事内容については整形では、一般治療食（常食、全粥）が多く、内科では一般治療食、特別治療食（DM食、肺炎食、減塩食等）の他、脳血管疾患後遺症による嚥下困難食（刻み食、ミキサー食、トロミ食、経管栄養食）が多くなっている。（グラフ7、グラフ8）



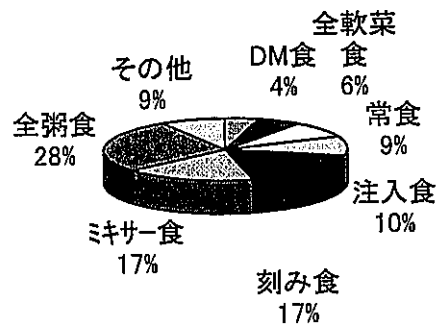
豊栄整形食事内容



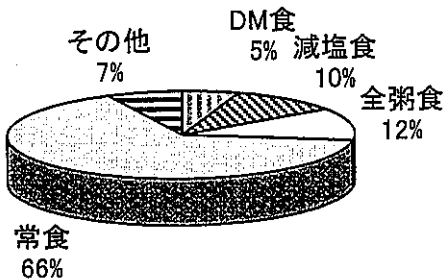
グラフ8 糸魚川内科食事内容



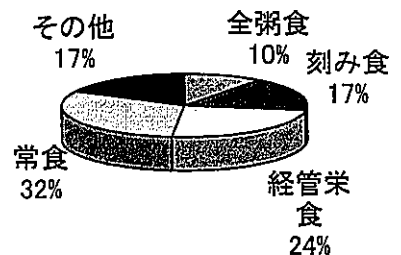
グラフ7 糸魚川整形食事内容



豊栄内科食事内容



魚沼整形食事内容



魚沼内科食事内容

おわりに

調査期間が4カ月と短かったが、療養型病床群の定義づけに基づいた入院患者の動向が伺われた。

平成12年4月より、いよいよ介護保険制度が開始さ

れる。

私達栄養士は入院患者の栄養管理はもちろんであるが、地域住民の保健・医療・福祉にどの様にして関わっていけばよいのか、これからの課題である。

Original Article

Fact-finding survey on convalescent wards in general hospitals

Hiroko Kosaka^{*1)}, Mieko Kamidaira^{*2)}, and Kyoko Takano^{*3)}

In the Koseiren we are currently aiming to improve hospital management by planning hospital conversions to cope with an aging society.

In the midst of the diversification of regional medical needs, the introduction of convalescent wards in general hospitals will provide a linked series of medical and nursing services and enable functional sickbed use.

In addition, forming alliances with special use and geriatric health facilities and improving home care by utilizing visiting nursing stations will make it possible to contribute to the health, medical care, and welfare of local residents.

We conducted a fact-finding survey with the purpose of determining the current state of affairs in Hoei, Itoigawa, and Uonuma Hospitals, where convalescent wards have been introduced and report the results.

Key words : Aging society, convalescent wards in general hospitals, nursing care insurance system

^{*1)} *Department of Dietary, Toyosaka Hospital
Kayama1-2-6, Toyosaka, Niigata950-3327*

^{*2)} *Department of Dietary, Itoigawa General Hospital*

^{*3)} *Department of Dietary, Uonuma Hospital*